令和８年度第１回千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会　議事要旨

１　日　　時　　令和８年９月１５日（火）１６時３０分～１７時３０分

２　場　　所　　千葉市役所３階　Ｌ３０１会議室

３　参 加 者　　≪委員≫３名（五十音順）
髙梨　園子委員、沼尾　波子委員、森川　博之委員

≪事務局≫２名
渡部未来都市戦略部長、田中スマートシティ推進課長

４　議　　題
（１）スマートシティ推進ビジョンの見直しの方向性について

５　議事概要
（１）スマートシティ推進ビジョンの見直しの方向性について
千葉市スマートシティ推進ビジョンの見直しの方向性について、事務局より説明を行い、委員との意見交換を行った。

６　会議経過
～以下、議事要旨～

議題（１）スマートシティ推進ビジョンの見直しの方向性について	
（事務局）千葉市スマートシティ推進ビジョンの見直しについて、資料をもとに説明を行った。	
＜意見交換＞	
森川部会長	ただいまの説明を受けて、意見やコメントがあればお願いしたい。
髙梨委員	見直しの方向性については、よく検討されていると感じる。一方で、スマートシティの直接的な論点ではないかもしれないが、近年の豪雨災害により、千葉市は都市水害への対応が大きな課題として認識されている。スマートシティの観点から見ても、防災や減災の取組は重要なテーマであり、異常気象への対応やAIの活用をどのようにビジョンへ反映していくのかが気になっている。また、AIをはじめとした技術革新のスピードは非常に速く、スマートシティの取組みも加速度的に進展していることから、方向性を示すだけでなく、具体的な施策を迅速に実行していくことが重要ではないか。
田中スマートシティ推進課長	都市水害については、線状降水帯の発生予測の難しさや、内水氾濫による排水能力の不足など複数の課題があると認識している。気象分野では、スマートシティ実証補助事業を活用し、民間企業から気象予測の高度化につながる実証提案の募集を開

	始したところである。また、下水道分野では、雨水貯留施設等の整備水準について有識者会議で検討を進めている。さらに、センサーなどのデジタル技術を活用した危険箇所の把握や、市民が危険な場所に近づかないための行動変容の促進など、スマートシティの視点から、取り組める方策があるのではないかと思う。
沼　尾　委　員	今回の見直しの方向性については賛同する。特にスマートシティの目的としてウェルビーイングを明確に位置付け、AI やデータ連携基盤をその実現のための手段として整理した点は重要である。また、ウェルビーイングに関する人材育成や実証事業などの取組みも着実に進められていると感じた。 一方で、今回の見直しは新たな要素を追加するだけでなく、この 5 年間で何が実現され、市民生活やウェルビーイングの向上にどのようにつながったのかを振り返り、成果を検証する視点が重要である。取組内容だけでなく、その結果としてどのような効果があったのかを示すことが、市民にとっても分かりやすいものになるのではないか。 また、スマートシティは技術導入そのものが目的ではなく、地域課題の解決が目的である。そのため、施策や事業のアウトカム評価の仕組みや、データ活用を担う行政職員の育成状況を示すことも重要であると考える。 さらに、市民主役の考え方を掲げるのであれば、デジタル技術を使うことが難しい人を取り残さない視点も欠かせない。高齢者をはじめとした様々な市民への支援の考え方を明確に示すことが必要だろう。加えて、市民や事業者が課題発見や解決に参加する仕組みについても、AI やデジタル技術を活用した千葉市らしい特徴として、より踏み込んで示していくことが望まれる。
田中スマートシティ推進課長	スマートシティ推進ビジョン自体は、個別事業の KPI を管理する計画ではないが、市全体では、基本計画や分野別計画において進捗管理を行っている。今回の改定に当たっては、これまでの 5 年間の取組みを総括し、今後の方向性につなげる振り返りの要素を盛り込むことを検討したい。 また、職員の DX 人材育成については、単にツールの使い方を学ぶだけでなく、デジタルやデータ活用に対応した業務の考え方や仕組みそのものを理解することが重要であると認識している。このため、庁内で AI やデータ活用も含めた DX 人材育成方針の検討を進めている。 市民のデジタルリテラシー向上については、高齢者向けのスマートフォン講座や相談会などを実施しているほか、AI を含むデジタル技術の適切な活用方法について、啓発に取り組んでいる。今後も様々な世代に応じた支援を進めていきたい。
沼　尾　委　員	DX や AI の活用には、単に職員個人のスキル向上を図るだけではなく、行政組織全体の業務プロセスや意思決定の仕組みを見直すことが必要である。市民参加型の行政運営を進めるためには、庁内の情報共有や処理方法なども含めた行政改革の視点が必要であり、今後のスマートシティ推進において重要な課題となるのではないか。
田中スマートシティ推進課長	デジタル技術やデータ活用を取り巻く状況は、スマートシティ推進課設置当初と比べ大きく変化している。庁内でもシステムやアプリが個別に導入されるなどの課題があり、市全体として統一的な仕組みづくりやデータ活用体制の検討を進めている。ビジョンに反映できる内容については、今後整理していきたい。
森 川 部 会 長	見直しの方向性には賛成である。スマートシティの対象は市民だけでなく、市内企業や行政組織そのものも含まれる。それぞれの立場に寄り添いながら取組みを進めていくことが重要である。

	また、自動運転については全国的に実証実験の段階から実装を見据えた段階へ移行しつつある。自治体は重要なステークホルダーであり、公共交通への活用可能性や社会受容性、コストなどの課題を整理していく役割がある。千葉市としても積極的に取り組み、その成果を発信してほしい。
渡部未来都市戦略部長	自動運転については庁内の専門部署が中心となり検討を進めている。昨年度には実証実験を実施し、現在はそこで明らかになった課題の解決に取り組んでいる。今後も国や事業者と連携しながら取組みを進めていきたい。
髙　梨　委　員	自動運転に限らず、千葉市は先進的な取組みを実施しているにもかかわらず、その情報発信が十分ではないように感じる。市民への周知だけでなく、職員自身が誇りを持って情報発信できるよう、広報力・広聴力の向上にも取り組むべきである。
森 川 部 会 長	国や産業界との接点を活用し、先進事例として積極的に発信していくことも重要である。今回示された方向性については概ね賛同が得られたものと考えるので、本日の意見や欠席委員の意見を踏まえながら、見直し案のブラッシュアップをお願いしたい。
事務連絡	
田中スマートシティ推進課長	この部会の議事録については、事務局で作成し、各委員に御確認いただき、確定とさせていただきたい。
一同	（異議なし）
田中スマートシティ推進課長	次回は１２月から１月頃の開催を予定しており、追って日程調整をさせていただきたい。
―閉会―	